

平成 29 年度（2017 年度）  
事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

## 目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	2
3. 事業別概況	4
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	10
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	10
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	11
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	11
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	11
II. 普及事業（公益目的事業 2）	12
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	12
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	14
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	15
4. 広報（公益目的事業 2.4）	17
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	18
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	19
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	19
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	19
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	20
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	20
IV. 収益事業等	21
1. 公認（収益事業等 1）	21
2. 商品販売（収益事業等 2）	21
V. 法人・管理部門	22
1. 会員・会友	22
2. 理事会・会員総会	23
3. 組織運営	24
4. 常設委員会・特別委員会	24

## 概 況

### 1. はじめに

平成 29 年度の事業計画は、当連盟の中長期的な課題である次の 3 点について、継続あるいは強化して取り組んでいくこととした。

課題 1：財務的に強固な事業基盤を構築すること

課題 2：普及活動をブリッジセンターに定着させること

課題 3：プレイヤーの高齢化に対応すること

課題 1 に関しては、ブリッジフェスティバルを隔年開催にしたことで赤字体質から脱却する一応の目処が立った。初めて非開催としたのは平成 27 年度であるが、例年通り開催した翌平成 28 年度との合算で 400 万円強の黒字となった。2 回目の非開催年度である平成 29 年度は、予算 216 万円の黒字に対し決算は 276 万円の黒字であった。平成 30 年度の予算上の赤字は 455 万円であり、2 年度合算でほぼ収支均衡を目指している。

また、平成 29 年 11 月に JCBL が JOC 準加盟団体として承認され、国際交流事業に対し公的支援が受けられることになった。アジア競技大会が開催される平成 30 年度だけでなく、来年度以降も国際試合に関連する費用負担には大幅に軽減が見込まれることから、今後も健全な財務体質が維持できると思われる。

課題 2 に関しては、ここ数年の懸命な取り組みによって、普及活動がブリッジセンターに定着してきた模様である。平成 29 年度も計画通りほぼすべてのブリッジセンターで体験教室および入門講習会が定期的に開催された。

平成 29 年度からは、体験教室参加者があまり増加しないことおよび入門講習会に進む割合が上がっていかないことを新たな課題とし、その対策として「優待券進呈キャンペーン」を実施した。顕著な成果こそ見られなかったものの入門講習会受講者数は若干ながら増加し、一定の効果はあったと思われる。

課題 3 に関しては、平成 29 年度から学生リーグの活性化策など成果が目に見える具体的な施策で対応していくことを新たな課題とした。連盟は 10 年以上にわたって大学授業を展開してきたが、大学キャンパスにはようやくブリッジが根付いてきたようで、受講生と大学ブリッジクラブとの交流も盛んになってきた。平成 29 年度は仲間内のブリッジだけでなく連盟の公認競技会に出場する学生も増加し、それにつれて連盟に新入会する 10 代、20 代も増えた。

世界に目を移せば、そんな若い世代の活躍が目立った。平成 29 年 6 月に韓国・ソウルで開催された第 51 回 APBF 選手権大会のヤングスター部門（21 歳未満）に中学生ペアが大学生とともに日本代表チームとして出場し、平成 30 年に中国で開催される世界ユースチーム選手権大会の代表権を獲得した。さらに平成 29 年 8 月にフランス・リヨンで開催された第 5 回ワールドユースオープンブリッジ選手権大会のジュニア部門（26 歳未満）では、大学生チームが準優勝という輝かしい結果を残した。

なお、同会場で開催された第 43 回世界ブリッジ選手権大会（バミューダボウル）のシニア部門では、日本代表がオープン・ウィメン・シニアの 3 部門を通じて初めての快挙となるベスト 8 進出を果たし、ベテラン勢もその存在感を見せつけた。

以下では、平成 29 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

## 2. 連盟全体

平成 29 年度は、連盟全体の課題を①収益増加、②経費削減、③将来への投資の 3 つに集約し、引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施した。

### (1) 収益増加

「本年度の予算編成に関しては、基本的に来年度想定される赤字をカバーできるだけの黒字を計上し、2 年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には昨年度からブリッジフェスティバル関連を除外し、YehBros 杯開催を追加した 2 億 5 千万円の事業予算で、最終的には 5 百万円程度の黒字決算を見込む。」

当期経常増減額のうち経常収益については 2 億 5,022 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 3,268 万円となり、予算に対して 1,754 万円の不足となった。実際には商品販売事業の内部取引消去額が約 511 万円になり、それを含めても約 1243 万円の収益減となった。経常費用については当初予算では 2 億 4,806 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 2,992 万円（内部取引消去前は 2 億 3,503 万円）になり、約 1,814 万円（内部取引消去前は約 1,303 万円）の改善が見られた。経常収益では主催競技会収益が対予算比 390 万円の減収、公認競技会収益が対予算比 500 万円の減収となった。

競技会参加者数を見てみると、主催競技会、公認競技会ともに前年度をわずかに下回った。経常費用が予算を下回った主な要因は、普及事業費が対予算比 109 万円の減少、国際交流事業が 348 万円の減少、商品販売事業が 308 万円の減少、法人会計が 463 万円の減少であった。最終的に 2,755,289 円の黒字決算となり、平成 30 年度との 2 年度通算で収支均等を目指す。

「競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、実施を目指す。またディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上、ノウハウの継承を支援し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。」

平成 28 年度以降、参加者数の減少を防ぐ競技会を検討してきたが、平成 29 年度は一部のナショナル競技会でレギュレーションを変更し、一定の成果を挙げた。セクショナル競技会では、人気のある競技会の開催を増やす程度にとどまった。

ディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上については、ディレクターワーキンググループで継続して検討を行った。

平成 28 年度末の会員・会友数は平成 27 年度末の 7,719 人から若干増加して 7,753 人であった。平成 29 年度も入会や紹介のキャンペーンを継続したが、平成 29 年度末の会員・会友数は若干減少して 7,636 人となった。

平成 29 年度から知人の紹介の活性化を狙う新たな施策として「優待券進呈キャンペーン」を実施した。入門講習会の受講者は若干増加したが、新入会者の獲得には至っていない。受講者の 2 年目以降の継続と入会に期待したい。

### (2) 経費削減

「本年度は事務局職員の世代交代と事務所賃借スペース削減で管理費の支出抑制を図る。予算執行にあたっては従来の慣習にとらわれず、収入に応じた賞品提供や効果の出

ない普及活動には助成金削減なども検討する。」

平成 29 年度からは事務局職員の世代交代を徐々に進めていくことにし、1 年目の平成 29 年度は部長職職員 1 名の稼働割合を減少させて人件費を削減した。2 年目以降も同様に進めて人件費を削減し、近い将来に必要な職員の新規採用に備える。

平成 29 年 7 月から 1 階会議室およびディーリングルームを地下に移設し、1 階の該当部分を返却した。これにより賃借料だけでなく面積比に応じた清掃費、光熱費なども削減した。

普及活動の助成については長期的な視野で支援を行っていきいっぽう、効果の見えない普及活動は助成金を削減した。

「人件費については幹部スタッフが徐々に定年を迎えることから自然減は見込めるが、次代を担う若手職員の新規採用も喫緊の課題である。世代交代のためにはスムーズな業務引継ぎを行う必要があるが、定型業務についてはマニュアル化や作業効率化を図り、無駄を省いて確実性を高めていく。中期的には基幹業務について担当の二重化を進め、幹部職員の兼務化も視野に入れる。」

平成 29 年度から、管理職の担当業務について中堅職員への引継ぎを始めた。中堅職員の担当業務に関しては、今後採用する新人職員でも対応できるようマニュアル作りを進めた。いずれも、従来の慣行に流されないように注意しながら業務の進め方を見直し、作業効率化を図った。

「事務所賃貸料については、会議室およびディーリングルームを四谷ブリッジセンターの地下フロアに移設し、1 階の該当部分の賃貸契約を解除することで 5%程度の削減を見込んでいる。また移設後のスペースを効率的に使用することで、外部倉庫の物品を一部引き取り、手近な保管場所としても活用していく。」

平成 29 年 7 月から 1 階会議室およびディーリングルームで使用していた部分を返却したことで事務所賃借費用を 10%程度減少させた。ただし、平成 29 年度は第 2 四半期からの変更であるから、実際に減少した金額はその 4 分の 3 程度である。

会議室およびディーリングルームを四谷ブリッジセンターの地下フロアに移設した際、机や棚などの配置換えを行い、実質的な収納容量を拡大させた。

「普及事業においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの中期計画を改めて策定し、それに基づいて効率的な事業展開を進める。」

普及活動の助成については、費用と効果のバランスを検討し、支給基準の見直しを行った。インストラクターズセミナーは開催方法の見直しを行い、費用の削減と参加人数の増加を達成した。ユースの U26 部門の代表選抜方法を変更し、選考費用を削減した。

### (3) 将来への投資

「平成 24 年度以降、普及事業ではプロモーション活動に重点を移してきた結果、会員・会友数は順調に増加してきたが、昨年度はやや頭打ちになった。本年度はブリッジセンターと協力関係をいっそう強化して、大学ブリッジクラブの現役学生をはじめ卒業して

間もない新社会人や年数回の特定競技会だけしか出場しないような学生リーグ OB に向けた新しいアプローチを試みる。」

センター主催体験教室および入門講習会の告知広告の新聞掲載については、引き続き実施をしていくものの掲載開始直後のような効果は期待できなくなっている。大人世代には優待券進呈キャンペーンによりロコミの活性化を図った。若い世代へのアプローチとしては、土日や平日夜に開催する若い人向けの普及活動を支援し、新規に始める若い人、大学授業受講者、多少遠ざかっている大学ブリッジクラブ卒業生などの取り込みを行った。

「そのほか、昨年度提案した新たな形態のブリッジサロンを拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げたさまざまな魅力あふれるプレイ環境を構築していく。」

プレイヤーズサロンを開催し、初級者から熟練者までの幅広い層が平日夜にプレイできる機会を増やすとともに、競技会のハンドを使用し競技会のスコアと比較することで刺激のあるプレイ環境を提供した。

### 3. 事業別概況

#### (1) 競技会事業（公益目的事業 1）

##### 【競技運営】

「主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

YehBros 杯の運営を引き受け 7 月にホテル椿山荘で開催した。世界トップクラスのチームが数多く参加し、日本からも 3 チームが参加した。

##### 【ブリッジフェスティバル】

「2015 年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。今年度は開催せず、次回は 2019 年 2 月に開催する。2018 年 2 月には横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ開催する。」

平成 29 年度はブリッジフェスティバルを開催せず、横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ開催した。横浜スイスチームには 19 チーム、海外から招待チームの参加はなかった。

##### 【競技会の向上】

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

競技会用ボードを追加購入し、ボード組込が必要な主催競技会すべてを組込ボードで運営した。藤山杯の競技会形式を予選・決勝から 2 日制に変更した。

##### 【JTOS】

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）についてはこれまで JTOS 保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。」

2017 年 2 月にリリースした JTOS Ver 3.4 の導入支援を行った。修正・機能追加しアップデートした。

ブリッジメイトのファームウェアのアップデートを導入クラブに通知し、アップデートを依頼した。

地方リジョナルへのブリッジメイトの無料貸出を実施し、その他の希望クラブには有償で貸し出した。

#### 【ディレクター育成】

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度は隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムを実施する。」

クラブディレクター講習会を 2018 年 3 月に開催した。

ナショナルディレクター養成プログラムを実施した。

ディレクターワーキンググループにより、現役ナショナルディレクターの資格更新制度を検討し養成プログラムと合同で 2 次試験を実施することに決定した。

1 次試験(3 名受験 1 名通過、2 名免除)、2 次試験(6 名受験 3 名通過)を実施した。

#### 【新規則対応】

2018 年 3 月 31 日の新規則移行に備えて、新ルールブック作成しを全公認クラブ/センターに配布した。新ルール解説を会報に掲載し、首都圏ブリッジセンターで講習会を 11 回開催した。

## (2) 普及事業（公益目的事業 2）

#### 【広報活動】

「ブリッジの知名度向上と新規プレイヤーの呼び込みに取り組む。ブリッジのルールや初歩を扱った入門用のブリッジ紹介動画を作成し、YouTube などに公開していく。次代を担う若い新しい層への働きかけを狙う。」

平成 29 年度は、体験教室の開催回数を増やし、ブリッジの知名度向上と新規プレイヤーの呼び込みに取り組んだ。ブリッジのルールや初歩を扱った入門用のブリッジ紹介動画作成は検討段階にとどまり、平成 30 年度の作成を目指す。

#### 【普及用コンテンツ】

「普及用の各種コンテンツを整備し、全国のブリッジ普及の現場に有効な選択肢として提供していく。普及用共通スタンダードシステムや入門用の問題やテキストを作成する。」

平成 29 年度は、普及用の各種コンテンツの整備に取り組み、全国のブリッジ普及の現場に選択肢として提供していくための作業を一部開始した。普及用共通スタンダードシステムや入門用の問題やテキストは試作版を作成した。

#### 【入門教室】

「各センター・クラブと連携し、体験教室や入門コースの参加者の増加を図る。会友会員の知人の継続率の高さを活用して、知人を紹介した会員会友に優待券を配布するキャンペーンを実施する。」

平成 29 年度は、告知広告の掲載メディアを工夫し、体験教室や入門コースの参加

者の増加を図った。知人を入門講習会に紹介した会員会友に優待券を配布する「優待券進呈キャンペーン」を実施した。

**【京阪神の普及活動】**

「大阪、名古屋における普及活動は、カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れていく一方で、若い層は競技会に積極的に誘致して活性化させていく。」

平成 29 年度の大阪、名古屋における普及活動は、カルチャースクールと連携し、一般層への浸透に取り組んだ。関西圏の若いプレイヤーの競技会参加を奨励し、関西学生ブリッジの活性化につながった。

**【その他各地域の普及活動】**

「福岡や仙台及びその他の全国各地域の普及活動は、広告宣伝への協力やコンテンツの提供及び講師の育成を行い、地元と連携しながら幅広い支援を行う。」

平成 29 年度は、広島の実験教室と入門講習会の開催を支援し各種協力を行った。地元講師の育成のため、実験教室のデモンストレーションに講師派遣を行った。福岡や仙台およびその他の地域と連携し、広告宣伝への協力を行った。

**【体験イベント】**

「ブリッジを知らない人にカードを握って体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねんりんピック、ゲームマーケットなどに出席する。」

平成 29 年度は、ゲームマーケットの出席日数を増やし、ブリッジを知らない人に体験してもらう場を開催した。ブリッジ体験ブースを 9 月のねんりんピック(秋田市)、および 11 月の国民文化祭(奈良県広陵町)にそれぞれ出席した。

**【体験教室や講習会等の支援】**

「センター・クラブ・カルチャースクールなどで実施する体験教室や講習会等を支援する。経費負担への助成支援や体験教室に使用する道具類の提供を行う。」

平成 29 年度は、全国のセンター・クラブ・カルチャースクールなどで実施する体験教室や講習会等を支援した。必要に応じて体験教室の進め方のノウハウや道具類の提供を行った。

**【大学でのブリッジ授業の開講】**

「大学でブリッジ授業を開講することにより、ブリッジを宣伝し社会的認知度の向上を図りながら、若い世代にブリッジを体験する機会を提供する。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。」

平成 29 年度は、ブリッジ授業を東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学の計 5 大学で開講した。東京大学では講師陣の新体制への移行を行った。大阪大学では授業の実施期間を前期に移動することで受講者数が増加した。

**【ユースの育成】**

「12 歳～25 歳の青少年プレイヤーの人数の拡大や技術レベルの向上に取り組む。大学生をメインターゲットとして、講習会や合宿の開催や補助、競技会への招待、活動支援などを行う。」



平成 29 年度は、小学生から高校生を対象にした橋之介くらぶを、従来の四谷と横浜の両ブリッジセンターに加えて大船ブリッジセンターでも開始した。高校生から 26 歳未満までのユース世代の育成に取り組み、講習会や合宿の開催およびその補助などを行った。5 月に行われた APBF 選手権の 21 歳未満の部門では 2018 年 8 月に行われるユース世界選手権の出場権を獲得した。

【初心者競技会参加の支援】

「初心者競技の楽しさを感じてもらおうよう、初心者競技会への参加を支援する。賞品の充実や地方参加者の無償招待をすることで参加者を増やし、地方の競技参加層を拡大させる。」

平成 29 年度は、初心者競技の楽しさを感じてもらおうよう、初心者競技会の賞品の充実や地方参加者の無償招待を行った。支援を行った初心者競技会は参加者が増加し、少ないときで通常時の 5 割増し、多いときで 2 倍以上となった。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【Yeh Bros 杯】

「本年度は、2013 年 4 月に続いて 2017 年 7 月に Yeh Bros 杯を日本で開催する。ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。」

平成 29 年度は、7 月に Yeh Bros 杯を日本で開催した。ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざした。

【APBF 選手権】

「2017 年 5 月 28 日から 6 月 7 日にかけてソウル（韓国）で開催される第 51 回 APBF 選手権にオープン、ウィメン各 1 チーム、シニアチームを派遣する。また大会に併せて開催される APBF 代表者会議に役員を派遣する。」

平成 29 年度は、ソウル（韓国）で開催された第 51 回 APBF 選手権にオープン、ウィメン各 1 チーム、シニア 2 チームを派遣した。また、大会に併せて催される APBF 代表者会議に役員を派遣した。

【世界選手権】

「APBF 選手権の成績により世界選手権出場資格を獲得した場合、8 月 12 日から 26 日にかけてリヨン（フランス）で開催される第 43 回世界ブリッジチーム選手権に代表チームを派遣する。」

平成 29 年度は、リヨン（フランス）で開催された第 43 回世界ブリッジチーム選手権にシニア代表 1 チームを派遣した。オープンおよびウィメンは APBF 選手権での世界選手権への代表権をかけたプレイオフで敗れ、世界選手権出場はならなかった。

【世界ユース選手権】

「ユース部門では第 51 回 APBF 選手権にジュニア、ヤングスターチームを、8 月 15 日から 24 日までリヨン（フランス）で開催される世界ユース・オープン選手権に代表チームを派遣する。」

平成 29 年度は、ユース部門では第 51 回 APBF 選手権と併載された第 21 回 APBF ユース選手権にジュニア、ヤングスターチームを派遣し、ヤングスター部門で平成 30 年度に開催される世界ユースチーム選手権への出場権を獲得した。

8 月 15 日から 24 日までリヨン（フランス）で開催される世界ユース・オープン選手権に代表チームを派遣し、USA に続いて準優勝を果たした。

#### 【アジア競技大会】

「2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会においてブリッジ種目が採用された。今後 JOC の認定団体となるよう働きかけを行い、インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。」

平成 29 年度は、2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会においてブリッジ種目が採用された。これに伴い JOC の準加盟団体の承認を得た。今後人材の育成や国際大会の開催に助成金の支給が期待できる。

インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努めた。

#### 【東京オリンピック】

「2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めてゆく。」

平成 29 年度は関係団体と実現に向けて協議を行った。

### (3) 収益事業

#### ① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図り、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような態勢の実施をめざす。」

競技会の結果報告を JTOS で送信してもらうことにより、競技会のすべてのデータが集められている。マスターポイント発行、公認料、競技会参加料の割引状況を一元的に管理している。

前年度行った CCG 公認料、非会員の主催競技会での参加料、および非会員のセクショナル以上の公認競技会での公認料の 3 つの改訂については、定着している状況を確認した。

#### ② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

### (4) 管理部門

「平成 28 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26,27 年度の無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者減少のための方

策を検討する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していく事業を継続する。」

H26,27 年度の新入会無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も約 80%が会友として継続している。十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

「事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。」

事務局員の世代交代に向け、業務の効率化を推進するとともに業務の引継ぎを本格的に実施した。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。」

業務達成評価シートを活用し、面談によってそれぞれ課題を明確にして取り組むよう指導した。事務局会議を 2 週間に 1 度開催し、各自の業務予定の発表とともに事務局全体への周知、上司からの指示を伝えた。

「進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。」

高齢なプレイヤー間の会話のトラブル、およびフィールドのバランスを損なう異常なスコアが頻発したケースに対して、記録保管制度の活用を推奨した。制度に報告されたあとは経過観察がなされ、必要に応じてブリッジセンターやクラブと連携した対応が行われることとなる。

## I. 競技会事業（公益目的事業 1）

## 1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

## ① 主催競技会

- 平成 29 年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日程	開催日数	場所	参加卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 15、16 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	67 卓	79 卓
全日本地域対抗選手権 （関東予選）	5 月 13、14、 20、21 日	4 日	四谷 BC	31 卓	35 卓
藤山杯	7 月 1、2 日	2 日	四谷 BC	42 卓	42 卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8 月 19、20 日	2 日	四谷 BC	20 卓	25.5 卓
高松宮記念杯	9 月 16、17、18、 23、24 日	5 日	四谷 BC/ 五反田 BS	79 卓	85 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	10 月 14、15 日	2 日	四谷 BC	37 卓	38.5 卓
全日本女子ペア選手権 （予選・決勝）	10 月 21、22 日	2 日	四谷 BC	38.5 卓	50 卓
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	82.5 卓	79 卓
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	39 卓	41 卓
朝日新聞社杯	1 月 6～8 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS/ 高田馬場 BC/渋谷 BC	136 卓	144 卓
2) 日本リーグ					
1 部	} 前期：4・7 月 後期：12・1 月	4 日	四谷 BC	16 卓	16 卓
2 部		4 日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4 月 1、2 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS 高田馬場 BC	105 卓	114 卓
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/横浜 BC 名古屋 BC/大阪 BC	83 卓	83.5 卓
井上杯（予選・決勝）	5 月 27、28 日	2 日	四谷 BC	17 卓	22.5 卓
井上歌子杯	5 月 28 日	1 日	四谷 BC	29.5 卓	29.5 卓
渡辺杯	3 月 24、25 日	2 日	四谷 BC	39 卓	39 卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11 月～3 月		各会場	12 卓	14 卓

- 平成 29 年度も前年度優勝者を招待した。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 4 競技会 20 チームと、ペア戦 3 競技会 36 ペア、補助総額は 340 万円。

- ナショナル競技会は参加者数が全般的に例年より減少している。

## ② NEC ブリッジフェスティバル

- 隔年開催のため平成 29 年度は開催しなかった。

## 2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

平成 29 年度は以下の事業を実施した。

### ① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い随時バージョンアップしたβ版を提供した。ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対してはアップデート情報を提供した。不具合の発生したブリッジメイト端末を各クラブから預かりメーカーに送付して修理した。

### ② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し、参加者数に対して余裕のある会場スペースの準備・確保に努めた。

### ③ 競技委員会

- 寺本直志理事を委員長として以下の 11 名が委員として活動した。

委員：齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、西田奈津子、正村祐一、林伸之、横井大樹、吉田正、仲村篤志、競技会事業担当業務執行理事

- 定例委員会を 6 回開催した。

### ④ ルール委員会

- ルール委員会を 7 回開催した。
- 2017 年版ブリッジの規則を翻訳し、2018 年 3 月 31 日より実施した。また、新規則を会報で紹介し、解説を Web で公開した。

## 3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

平成 29 年度は以下の事業を実施した。

### ① ディレクター講習会

平成 30 年 3 月 17 日（土）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、12 名が受講した。同時にクラブディレクターを対象とする講習会を開催し、2 名が受講した。

### ② ナショナルディレクター養成プログラム

平成 29 年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施した。ディレクターワーキンググループでナショナルディレクター 1 次試験および 2 次試験の準備を進めた。

### ③ ディレクター承認

競技委員会においてナショナルディレクター 1 名、クラブディレクター 24 名、セクショナルディレクター 5 名を承認した。

ナショナルディレクター資格更新試験を行い、2 名が資格更新、3 名が資格喪失した。

### ④ 新規則講習会

2017 年版ブリッジの規則に関する講習会を 11 回開催し、のべ 268 名が受講した。

## 4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## II. 普及事業（公益目的事業 2）

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図る。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の4事業を行う。

平成 29 年度は、以下の方針で事業を進めた。

「平成 29 年度はブリッジのルールや初歩を扱ったブリッジ紹介動画の作成と YouTube 等での公開、普及用スタンダードシステムや入門用の問題やテキストの作成、知人を入門講習会に紹介した会員会友に優待券を配布する講習会活性化策の実施の3点に力を注ぐ。首都圏は体験教室や入門講習会の参加者が増加する工夫を行い、その他の各地域はコンテンツやノウハウの提供をしていくことで普及の促進を図っていく。」

ブリッジ紹介動画の作成およびその公開については、動画の構成の原案を作成した。平成 30 年度は撮影準備と制作に移行する。普及用スタンダードの作成の入門用の問題やテキストの作成は、普及スタンダードの試作版を作成した。入門用の問題やテキストの作成は検討にとどまった。知人を入門講習会に紹介した会員会友に優待券を配布する講習会活性化策の実施は、優待券進呈キャンペーンを平成 29 年 4 月より新たに開始した。平成 29 年度のキャンペーンの利用状況は、全国 8 ブリッジセンターおよびクラブで合計 37 名の入門者が紹介された。

「普及事業部全体としては前年並みのコストで展開する。中心的な継続事業（体験イベントの開催、体験教室や入門講習会の実施支援、大学でのブリッジ授業の開講、ユース育成、子供向けイベントの開催、プレイヤーズサロン、初心者競技会の支援）は、前年並みの規模で実施し細かい改善を行っていく。」

体験イベントの開催は、ねんりんピックおよび国民文化祭への出展、サンケイリビング社の一般向けイベントへの出展回数の増加など、積極的に行った。体験教室や入門講習会の実施支援は、ブリッジセンター、クラブおよび個人が開催する体験教室および入門講習会の助成は昨年を下回ったが、カルチャースクール講座の助成が増え、全体としてはほぼ前年度並みとなった。大学でのブリッジ授業の開講は今年度も 5 大学で予定通り実施した。

ユース育成および橋之介くらすの運営を行った。プレイヤーズサロンを 3 センターで実施した。初心者競技会の支援は、優勝賞品や参加費を提供し希望する全国のブリッジセンターに運営を委託して開催した。

### 1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を「体験イベントの開催」としてまとめ、以下事業を実施した。

## ① 文化・教育関連イベント出展

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加人数(延べ)
国民文化祭	文化庁	奈良県広陵町	11月3~5日	3日	一般	120名
ねんりんピック	厚生労働省	秋田県	9月9~11日	3日	一般	150名
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	8月2~3日	2日	小学生及びその保護者	400名
第11回関西ジュニア・ベア基大会	日本ベア基協会	大阪サンライズビル	9月10日	1日	小中学生及びその保護者	30名
ゲームマーケット(東京)	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	5月14日	1日	一般	98名
ゲームマーケット(東京)	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	12月2~3日	2日	一般	115名

平成 29 年度は、NEC ブリッジフェスティバルおよび同期間中に行われる体験教室、初心者大会は非開催の年度であった。

ねんりんピック秋田では、地元のプレイヤーの協力のもと体験イベントを開催し、ブリッジの普及宣伝と地元クラブへの誘導を図った。

小学生及びその保護者を対象とした霞が関子ども見学デーへの体験ブースの出展では体験者が増え好評を博した。

ゲームマーケット 2017 秋は 2 日間出展した。1 日から 2 日に出演時間が増えたこと、および指導側のスキルの向上により参加者が体験しやすくなった。

## ② 一般向け体験イベント

サンケイリビング社主催イベント「主婦の文化祭 in 吉祥寺」(平成 29 年 7 月 17 日開催、来場者 40 名)、「アート&ライフマーケット横浜」(平成 29 年 11 月 29 日開催、来場者 90 名)、および「アート&ライフマーケットまちださがみ」(平成 29 年 12 月 1 日開催、来場者 40 名)に出展し、おもに 40 代~50 代の女性に向けた体験教室を開催した。

## ③ 子ども向け体験イベント

## ・ 橋之介くらぶ体験イベント

平成 29 年 4 月にジュニアくらぶから橋之介くらぶへ名称変更を行った。平成 29 年 9 月より大船 BC で橋之介くらぶイベントを開始し、以降は四谷 BC、横浜 BC と合わせて合計 3 会場での開催となった。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。

## 年間開催実績

事業名	実施場所別回数			実施時期	参加人数(合計)
	四谷 BC	横浜 BC	大船 BC		
体験/入門/練習会					
体験教室	6	3	4	通年	28名
橋之介道場	7	2	2	通年	23名
大会					

お楽しみ大会	1	1	0	5月/12月	7名

- 橋之介くらぶ運営

平成 29 年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は 16 名（平成 28 年度 8 名）、年度末時点での会員数は 156 名（同 165 名）、各種イベントへの延べ参加者数は 58 名（同 64 名 ※ジュニアのみ）であった。

子ども向け広報活動として季刊誌『橋之介くらぶ通信』の編集・発行（6 月、9 月、12 月、3 月）を行った。このほか、会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

## 2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

### ① インストラクター講習会

公認資格制度の前段として、ブリッジに限定しない一般的な講師力や対話力等の一般的な指導スキルを習得するためのインストラクター講習会を平成 30 年 3 月 31 日に開催し、長崎、静岡、神奈川、埼玉、千葉、東京から 24 名が参加した。

### ② ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

#### A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

平成 29 年度の代表選手及び平成 30 年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の 4 競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの平成 29 年度の登録者数は 60 名（前年比 9 名減）だった。

#### B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

平成 29 年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- 第 51 回 APBF 選手権

会 期： 平成 29 年 5 月 27 日～6 月 7 日

開催地： 韓国（ソウル）

内 容： 26 歳未満(U26)と 21 歳未満(U21)のジュニアチーム計 12 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

- 第 5 回世界ユースオープン選手権

会 期： 平成 28 年 8 月 15 日～8 月 24 日

開催地： フランス（リヨン）

内 容： 26 歳未満(U26)のジュニアチーム 6 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

### ③ プレイヤーズサロンの拡充

遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、口コミや人の繋がりを活用



して参加者の拡大を図った。毎月 1 回常設されている 3 センターに加えての新たな 1 センターもしくは 1 開催増加を模索した。

#### ④ 入門講習会のカリキュラム制作

List-A、B、C に準拠した普及用スタンダードシステムの制定を目指し、入門用カリキュラムのリニューアルと並行して検討した。

### 3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

#### ① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

8 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、同窓会、公民館、ブリッジクラブ、海外クラブで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	290 名	11 件	¥162,520
栃木	244 名	15 件	¥174,000
群馬	10 名	2 件	¥12,000
東京	374 名	59 件	¥600,080
千葉	18 名	6 件	¥49,480
神奈川	205 名	26 件	¥273,280
大阪	67 名	4 件	¥60,720
福岡	39 名	5 件	¥52,820
海外	8 名	1 件	¥6,000
合計	1,255 名	129 件	¥1,390,900

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

8 都道府県及びジャカルタで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	61 名	4 件	¥529,500
宮城	15 名	3 件	¥231,360
東京	149 名	24 件	¥1,223,116
千葉	5 名	1 件	¥63,980
神奈川	122 名	18 件	¥1,839,010
京都	6 名	1 件	¥64,400
福岡	3 名	1 件	¥65,500
海外	5 名	1 件	¥50,700

クルーズ	58名	1件	¥160,000
合計	424名	54件	¥4,227,566

- カルチャー講座助成

9 都府県で開講されているカルチャースクール講座 62 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	7名	1件	¥29,610
京都	18名	4件	¥189,120
東京	413名	27件	¥942,484
埼玉	30名	4件	¥85,520
千葉	21名	6件	¥217,545
神奈川	12名	2件	¥85,800
長野	20名	4件	¥158,500
愛知	77名	8件	¥374,940
大阪	35名	6件	¥327,084
合計	633名	62件	¥2,410,603

- 地方活性化活動（地方クラブ支援）

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第 10 回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラスおよび APBF2012 福岡記念カードセットを寄贈した。（9 月）

## ② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（12 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス

講師： 浅井潔

支援内容： 講師及びアシスタント 2 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援を行った。

結果： 受講登録者 34 名 単位取得者 29 名

- 早稲田大学ブリッジ講座（9 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 早稲田大学

講師： 並木亮

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 59 名 単位取得者 58 名

- 青山学院大学ブリッジ講座（6 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 青山学院大学

講師： 島村京子

支援内容： 講師及びアシスタント 6 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 79 名 単位取得者 60 名

• 明治大学ブリッジ講座（4 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回

実施場所： 明治大学

講師： 清水映樹

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 22 名 単位取得者 20 名

• 大阪大学ブリッジ講座（3 年目）

講座概要： 前期 15 回

実施場所： 大阪大学

講師： 大橋正幸

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 25 名 単位取得者 24 名

③ 学校・学生支援

• 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：7 クラブ

• 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）  
要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。

• 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

学生リーグ主催の学生選手権および学生合宿に今回初めて参加した学生の宿泊費・交通費の一部を対象にて助成を行った。

夏季学生選手権・合宿

開催日：平成 29 年 9 月 6 日～9 月 11 日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：63 名（うち受益対象者、19 名）

春季学生選手権・合宿

開催日：平成 30 年 3 月 12 日～3 月 17 日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：55 名（うち受益対象者、13 名）

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- 平成 29 年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

	掲出媒体	回数
プロモーション広告	SKYMARK 機内誌	12 回

	2017 年 4 月号～2018 年 3 月号	
イベント告知広告	サンケイリビング新聞社主催イベントブース協賛 7月17日 主婦の文化祭 in 吉祥寺 11月29日 アート&ライフマーケット横浜 12月1日 アート&ライフマーケットまちださがみ	3回

- センター主催体験教室・講習会告知広告  
河北新報 5 月（宮城）15.2 万円  
朝日新聞 9 月（東京・神奈川・千葉）：115.5 万円  
東京新聞 9 月（東京）22.7 万円  
読売新聞 2 月～3 月（関東）：129.6 万円  
西日本新聞 3 月（福岡）：32.4 万円  
リビング新聞 3 月（東京副都心）：16.2 万円
  - その他の広報宣伝活動  
プレスリリース配信：5 本  
ブリッジ図書寄贈プロジェクト（大分）：8 箇所、14 冊
  - 「普及通信」ウェブ版を隔月更新した。
  - 20 代から 30 代を主な対象とし女性参加者が半数以上を占める社交型ブリッジの普及活動「light bridge」を支援した。競技ブリッジとは異なり、シンプルなブリッジと社交を楽しむスタイルを模索するとともに、新しい層へのブリッジの浸透を図った。
  - 20 代から 40 代のブリッジをメインにしたゲーム愛好家のイベント「Table Cruise」の活動拡大を支援した。イベント参加者は新規にブリッジを開始するゲーム愛好家、ユースや大学授業でブリッジを経験したことがある人で構成された。
- ② プロモーション活動
- ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。
  - 全国のブリッジセンター・ブリッジクラブを一体になったプロモーション制度の設計や年数回程度しか競技会に出場しない会員・会友を対象にした活性化キャンペーンについて検討した。
- ③ 出版物の刊行
- 普及用スタンダードシステムに準拠した入門レベルの教材の制作のため、2001 年初版の「ミニブリッジをとりいれたコントラクト・ブリッジ入門 I ティーチングプログラム（教師用マニュアル）のリニューアルの検討を行った。ブリッジをテーマにした小説の制作、出版を目指して情報収集を行った。
- ④ ウェブサイト運営
- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。2015 年 1 月に改訂した助成制度のさらなる定着を図った。
- ⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布
- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）
- 普及ネットの運営を行った。
  - ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

### III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

平成 29 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

#### 1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

##### ① 国際大会開催準備

平成 29 年度は平成 32 年の APBF 競技会の日本開催を目標に資金を積み立てた。

##### ② Yeh Bros 杯

平成 29 年 7 月にチャイニーズ・タイペイの葉氏が主催する国際試合 Yeh Bros 杯を日本で開催し、会場の確保、スタッフの派遣など運営に協力した。

#### 2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

##### ① 日本代表選抜

- 平成 29 年度は平成 30 年度に代表を派遣する第 3 回アジアカップ及び第 18 回アジア競技大会の日本代表選抜を予定していたが、いずれも募集チームの変更などがあり、代表選抜試合は行わなかった。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

##### ② 国際競技会派遣

##### • APBF 選手権

平成 29 年度は 5 月 28 日から 6 月 7 日の日程で、ソウル（韓国）で第 51 回 APBF 選手権が開催された。

代表者会議には吉田理事が APBF 幹事長として、寺本、山田理事が代表委員として出席した。

日本から以下の、オープン 1 チーム（全 15 チーム）、ウィメン 1 チーム（全 12 チーム）、シニア 2 チーム（全 16 チーム）を派遣した。

オープン：三浦裕明（NPC）、陳大偉、寺本直志、加来浩、古田一雄、田中陵華、横井大樹

ウィメン：吉田正（NPC）、下保俊子、柳澤彰子、福吉由紀、高崎恵、佐藤牧子、野田祐子

シニア 1：大政哲人（PC）、山田彰彦、大野京子、井野正行、山田和彦、今倉正史

シニア 2：阿部弘也（PC）、佐藤春芳、前田尚志、早坂雅之、田中裕子、杉野すみ子

試合成績はオープン 6 位、ウィメン 8 位、シニアが 5 位および 12 位であった。シニア 2 以外はゾーン 6 からの世界選手権出場チームを決定するプレイオフに出場したが、オープン及びウィメンはプレイオフで敗れ、世界選手権出場はならなかった。シニアチームのみ世界選手権への出場権を獲得した。

オープン、ウィメン、シニア 1 チームには交通費、宿泊費の助成を行った。

##### • 世界選手権

今年度は第 43 回世界ブリッジチーム選手権が 8 月 12 日から 26 日までの日程でリヨン（フランス）で開催された。

日本からは APBF 選手権で出場権を獲得したシニア 1 チームを派遣した。

シニア：三浦裕明（NPC）、山田彰彦、大野京子、井野正行、今倉正史、大政哲人

試合成績は予選 22 チーム中 8 位で決勝ラウンドにシニアとして初めて進出したが、準々決勝で、優勝した USA2 に敗れた。

メンバーには交通費、宿泊費の助成を行った。

- その他国際試合派遣

”TEST RUN ROAD TO ASIAN GAMES 2018”に参加したウィメンチームに対し交通費の助成を行った。

- ③ 国際競技会派遣（ユース）

平成 29 年度は以下の競技会への参加を支援した。

- 第 21 回 APBF ユース選手権（韓国 ソウル）：ジュニア（U26）部門、ヤングスター（U21）部門にチームを派遣した。ヤングスター部門で平成 30 年度に開催される世界ユースチーム選手権への出場権を獲得した。
- 第 4 回世界ユースオープン選手権（フランス リヨン）：ジュニア（U26）部門に選手 6 名、主将 1 名を派遣した。予選 17 チーム中 7 位となり、決勝ラウンドに進出し、USA に次いで準優勝した。

### 3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、平成 29 年度は以下の事業を実施した。

- ① 世界同時大会への参加

- 平成 29 年 4 月 26 日～6 月 4 日に開催された 2017 年世界同時大会開催に参加協力
  - 4 月 26 日（火）：5 クラブ、192 名参加（全世界：16 ヶ国、38 クラブ、1,198 名参加）
  - 4 月 28 日（木）：4 クラブ、98 名参加（全世界：18 ヶ国、39 クラブ、1,110 名参加）
  - 5 月 9 日（月）：5 クラブ、152 名参加（全世界：18 ヶ国、41 クラブ、1,232 名参加）
  - 5 月 11 日（水）：5 クラブ、142 名参加（全世界：14 ヶ国、38 クラブ、1,148 名参加）
  - 6 月 3 日（金）：13 クラブ、442 名参加（全世界：30 ヶ国、236 クラブ、7,026 名参加）
  - 6 月 4 日（土）：8 クラブ、176 名参加（全世界：26 ヶ国、204 クラブ、7,148 名参加）
- 平成 30 年 3 月 28 日・30 日に開催された 2017 年世界同時大会開催に参加協力
  - 3 月 28 日（火）：5 クラブ、134 名参加（全世界：15 ヶ国、37 クラブ、1,214 名参加）
  - 3 月 30 日（木）：4 クラブ、92 名参加（全世界：10 ヶ国、30 クラブ、850 名参加）

- ② APBF 同時大会への参加

- 参加予定であったが大会開催が中止された。

- ③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

### 4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## IV. 収益事業等

### 1. 公認（収益事業等 1）

#### 収益事業等 1.1 競技会の公認

##### ① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	H29 年度 卓数	H28 年度 卓数
ナショナル	25	224.5	208.0
リジョナル	52	1,538.0	1,590.0
セクショナル	2,509	38,364.5	38,292.0
ローカル	131	550.5	2,841.0
CCG	1,351	11,196.75	11,897.25
IMP	630	3,184.0	3,670.0
合計	4,698	55,058.25	58,495.25

##### ② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：64,471 枚

平成 29 年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	1 名
ゴールドライフマスター：	14 名
シルバーライフマスター：	43 名
シニアライフマスター：	119 名
ライフマスター：	145 名
シニアマスター：	184 名
ナショナルマスター：	171 名
マスター：	187 名
ジュニアマスター：	254 名

#### 収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

##### ① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援、バリアフリー工事助成を行った。

##### ② 競技会開催支援

地方リジョナル 5 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

### 2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

## V. 法人・管理部門

### 1. 会員・会友

#### ① 入退会の状況

会員／会友数(平成 30 年 3 月 31 日現在)

会員資格	H30/3月	H29/3月	増減
正会員	61	67	△6
シニア正	90	87	+3
終身会員	82	82	0
特別会員	11	13	△2
名誉会員	2	3	△1
小計	246	252	△6
A会友	2,907	3,105	△198
B会友	3,431	3,325	+106
地方会友	924	936	△12
ジュニア	43	55	△12
終身会友	85	80	+5
小計	7,390	7,501	△111
総計	7,636	7,753	△117
クラブ	102	103	△1

#### ② 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報）隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行

部数：7,700 部（1～4 号）、7,600 部（5～6 号）

『JCBL HANDBOOK』

毎年 5 月 1 日発行、部数：7,900 部

#### ③ JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

#### ④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：平成 29 年度入会対象（平成 29 年 4 月 1 日～4 月 30 日）

平成 30 年度入会対象（平成 30 年 1 月 1 日～3 月 31 日）

- ・ 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費 1 年間無料

実施期間：平成 29 年度無料対象（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

平成 29 年度および 30 年度無料対象（平成 30 年 1 月 1 日～3 月 31 日）



## 2. 理事会・会員総会

## (1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 40 回理事会 4 月 28 日 出席 9 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 39 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 平成 28 年度事業報告書および決算報告書について 4. 第 6 回会員総会の招集について 5. 理事による利益相反取引の承認について 6. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 会員総会への付議を決議 承認 承認 了承及び承認
第 41 回理事会 6 月 23 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 40 回理事会議事録の承認について 2. 各委員会及び事業部報告 3. 第 51 回 APBF 選手権シニア第 2 代表メンバー差し替え 4. 第 43 回世界ブリッジ選手権シニア代表メンバー/助成対象について 5. マスターポイント修正案 6. 第 5 回ユースオープン選手権代表メンバー	可決 了承及び承認 承認  承認 承認 了承 承認
第 42 回理事会 8 月 25 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 41 回理事会議事録案の承認について 2. ブリッジセンターの代表者変更について 3. 公認クラブ申請について 4. 各委員会及び事業部報告 5. 各センターの会報掲載前の事前告知について 6. 京葉ブリッジセンターの貸室賃貸借契約の連帯保証人の依頼について	可決 承認 承認 了承及び承認 承認  承認
第 43 回理事会 10 月 27 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 42 回理事会議事録案の承認について 2. 役員候補選出委員会の設置および委員長の選任について 3. 会員申込について 4. 各委員会及び事業部報告 5. WBF 主催セミナーについて 6. Yeh 杯の赤字分の調整について	可決 承認  承認 了承及び承認 了承 了承
第 44 回理事会 12 月 15 日 出席 9 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 43 回理事会議事録案の承認について 2. 平成 30 年予算案について 3. 各委員会及び事業部報告 4. JOC への加盟について	可決 継続審議 了承及び承認 了承
第 45 回理事会 1 月 26 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 44 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 平成 30(2017)年度予算案および事業計画について 4. 各委員会及び事業部報告 5. アジア競技大会への対応について 6. 競技運営規則の付表の改訂案 7. WhiteHouseJuniors2018 派遣への助成	可決 了承 継続審議  了承及び承認 了承 承認 承認

	8. Yeh 氏に送るレターの文面案 9. YehBrosCup2018 代表選手派遣	承認 了承
第 46 回理事会 3 月 23 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 45 回理事会議事録案の承認について 2. 次期役員立候補状況について 3. 平成 30(2017)年度予算案及び事業計画について 4. 各委員会及び事業部報告 5. 第 3 回アジアカップ日本代表メンバー	可決 了承 承認  了承及び承認 承認

## (2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 6 回会員総会 5 月 27 日 総会構成員 252 名 出席 150 名 (委任状 124 名)	1. 平成 28 年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について 2. 平成 29 年度の事業計画並びに予算案の報告について	承認  了承

## 3. 組織運営

## ① 事業運営体制

- 平成 30 年度予算案の審議のために、平成 29 年 12 月 1 日に業務執行理事による業務執行会議を企画委員会と合同で開催した。各事業部から提出された予算案をまとめた予算案原案が提出され、この原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会および 1 月、2 月開催の企画委員会において予算案を検討した。3 月 1 日に開催した企画委員会において平成 30 年度予算案および事業計画をまとめ、3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改定を行った。

## ② 事務局

- ほぼ隔週に事務局会議を開催し、事務局員の今後の予定、担当している業務の進捗状況などについて確認を行った。

## 4. 常設委員会・特別委員会

## ① 企画委員会

- 平成 28 年 6 月 24 日開催の第 34 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 山田和彦（委員長）、清水映樹（事務局長代行）

（委員長が指名する委員）浅越ことみ、神代高弘、寺本直志、西田奈津子、古田一雄、高野英樹

アドバイザー：成田秀則監事、宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、平成 29 年 4 月 7 日、5 月 12 日、7 月 14 日、8 月 4 日、9 月 1 日、10 月 6 日、11 月 10 日、12 月 1 日（業務執行会議と合同開催）、平成 30 年 1 月 5 日、2 月 2 日及び 3 月 2 日の合計 11 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。

- 1) 平成 30 年度予算案審議・事業計画書作成

- 2) 平成 29 年度事業報告書作成
  - 3) ディレクター資格の付与および更新の基準に関する検討（ディレクターWG）
  - 4) マスターポイント制度の改定
  - 5) 競技会参加者の増加に関する方策
  - 6) その他、JCBL の運営全般に関わる事項
- (1) 平成 30 年度予算案の審議については、業務執行会議との合同会議により、予算全体の方針の審議や、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明と事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。  
また、平成 30 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。
  - (2) ナショナルディレクターの資格更新に関しては、ディレクターWGと連盟事務局により、試験問題の作成と採点を含めて予定どおり試験が実施された。
  - (3) 昨年度の IMP リーグのマスターポイントの改定に続き、ペア戦のマスターポイントの見直しとマスターポイントの全体発行量の維持に関して、競技委員会に申し入れた。
- ② センター協議委員会
- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。  
委員：山田和彦（委員長）、清水映樹（事務局長代行）、大政哲人（競技会事業部長）、高野英樹（普及事業部長）、ロバート・ゲラー（競技会事業担当理事）、齋藤陽子、大橋正幸（普及事業担当理事）
  - 原則として、奇数月にブリッジセンターの代表者との協議を行い、偶数月にそれを受けて連盟側委員による検討を行い、必要に応じて各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
  - 今年度に関しては、ブリッジセンターと連盟の間に大きな課題が生じなかったこともあり、競技会や普及活動に関する情報共有が中心であった。
- ③ 競技委員会
- I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照
- ④ ルール委員会
- I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照
- ⑤ 人事委員会
- 定例委員会を平成 29 年 10 月 20 日に開催し、清水映樹事務局長代行および大政哲人競技会事業部長の継続雇用条件について検討を行い、方針を決定した。また来年度事務局の構成について検討を行った。
  - 定例委員会を平成 30 年 2 月 14 日に開催し、平成 29 年度の職員の評価、平成 30 年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。併せて来年度事務局の構成を決定した。